

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 愛知県岡崎市立六ツ美中部小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒444-0244
愛知県岡崎市下青野町字井戸尻71番地

E-mail chubu@st.okalab.ed.jp

Website http://cms.oklab.ed.jp/el/chubu/

幼児児童生徒数 男子 163名 女子 156名 合計 319名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、ESDの視点を基盤に、教材、教科、人、地域との「つながり」や「かわり」を大切にした特色ある教育課程の編成を図っている。保護者や地域の人々に愛され、信頼される学校、地域とともに歩む学校づくりを教職員一体となって取り組む中、専門家や地元企業との連携、地域の科学的資産の活用により、教科学習で得た知識を身近な事象や現象、実際の生活場面と関連付けて、見方や考え方、感じ方を深めたいと考えた。今年度は、高学年の環境学習を柱に、本物に触れ実体験できる活動を大切に、ESDの視点に立ったエネルギー環境学習を実践した。中部の自然を愛し、中部学区の暮らしを守り育てながら、自身の見方や考え方、感じ方(価値観)の更新を繰り返し、「新たな自分を創る力」をもつ子供を育てることを目指している。

(1) 中部の樹木に親しむ緑の勉強会 (4～6年 環境委員会)

樹木医の訪問講義で、子供たちが識別のしやすい特徴的な葉や実をつける樹木を教材に選び、形やにおい、実の様子、名前の由来などを教えてくださった。(写真1) 学んだ樹木の情報を活用して問題を作り、「ちゅうぶ樹木クイズラリー」を企画した。毎日通り過ぎていた木がより身近な存在となった。

(2) 光合成から地球環境を考える学習 (6年 理科「生物と地球環境」)

自然科学研究機構基礎生物学研究所の滝澤謙二特任准教授の講義により、光合成の仕組みや食物連鎖の中で食べられるだけの立場の植物の大きな役割を知った。(写真2)

(3) 社会を支えるエネルギーと化石燃料の必要性を考える学習 (6年 理科「電気の働きとその利用」)

東邦ガスのガスエネルギー館の企業講師による講義から、現在の日本の発電では天然ガスに頼る割合が大きいことを知った。運搬のため、冷熱エネルギーも活用されており、マイナス162℃という超低温の世界を疑似体験する実験を行った。(写真3) 化石燃料をこのまま使い続けると、天然ガスや石油はあと50年、石炭はあと110年余りでなくなってしまう。このまま発電し続ければ二酸化炭素が増えて地球温暖化が進むと同時に、燃料がなくなり電気が使えなくなる可能性が見えてきた。

(4) 地球温暖化対策とエネルギーミックスの必要性を考える学習 (6年 総合「地球温暖化」)

二酸化炭素が増えると気温が上昇する様子をモデル実験(写真4)で示し、空気を汚さない発電を考える大切さを知った。原子力発電についての正しい知識をもって、発電に対する見方や考え方を働かせられるよう、放射線の専門家である名古屋大学名誉教授の西澤邦秀先生から、放射線の利点と問題点を教えていただいた。実験では、霧箱を製作して放射線の飛跡を自分の目で観察したり、身近にあるものの放射線を測定したりして、自然界に存在することを確かめることができた。(写真5) さまざまな発電方法を組み合わせるエネルギーミックスという工夫や、省エネルギーのためにできる自分の行動が見え始めた。

(5) 今の私にできる環境への負荷を考えた省エネルギーについて振り返る学習

(6年 総合「中部の自然の恵みと科学技術の共存」)

地球の自然環境を保全しながら、科学技術を利用して生きる暮らしのためにどう働きかけていくか、探究のふり返しをして自分の考えをまとめ、行動しようと決めたことを約束カードに書いた。(写真6)

写真1 樹木医の講義



写真2 植物観察



写真3 凍ったタオルでくぎ打ち



写真4 温暖化モデル実験



写真5 放射線測定実験



写真6 約束カードの掲示



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

校内樹木、地域で借用した田畑、サツマイモ、ジャガイモ、
外部講師から提供（東邦ガス：液体窒素、中部電力：温暖化モデル装置・
発電モデル装置、中部原子力懇談会：放射線測定器・霧箱）手回し発電機

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

環境学習（全学年）・地域学習（全学年）・福祉（5年）・防災教育（6年）等の内容を本校の特色ある学習として扱い、生活科、総合的な学習、特別活動の時間を中心にし、教科との関連を持たせた教科横断的な大単元構想を組んでいる。この単元構想をESDカレンダーとし、年間指導計画を各学年で作成し、ユネスコスクールとしての活動を推進している。またこの取組に加え、問題解決的な学習を各教科で実践することを通して、ESD教育ではぐくみたい資質や能力を伸長させている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

保護者や地域の人々に愛され、信頼される学校、地域とともに歩む学校づくりを教職員一体となって取り組む中、専門家や地元企業との連携、地域の科学的資産の活用により、教科学習で得た知識を身近な事象や現象、実際の生活場面と関連付けて、見方や考え方、感じ方を深めたいと考えた。本物に触れ実体験できる活動を大切に、上学年と下学年の児童がペアになって活動する異学年交流を学習形態の一つに据え、六ツ美中部地区のシンボルである菜の花畑復活や、悠紀斎田の地として歴史を刻んできた米作り体験、治水に苦労した川の姿と水環境の学びなど、ESDの視点に立ってカリキュラムマネジメントする探究活動を計画している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校診断アンケートで「学校は、地域の人材を活かし効果を上げている」という質問に91.9%の保護者が「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」と回答し、学校評議員会でも、地域の人材、もの、行事などを活用した本物に触れ実体験できる活動を大きく評価していただき、地域や保護者もユネスコスクールとしての活動の継続を切望している。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

生活科・総合的な学習による子供の学びの成果を、3学期「ちゅうぶだいすきデー」と題した授業参観を実施し、保護者・地域の方に発信している。また、学校だより・校長室だより等を保護者地域に配付するとともに、学校ホームページに子供活動の様子を紹介し、活動成果を発信している。学校評議員会で、学校の活動の様子が話題になるなど、広く知られるようになってきた。また、本校の取り組みの様子を、平成29年度、ユネスコスクール豊橋大会の協議会で本校の取り組みを紹介し発信した。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

環境保全活動を推進する目的で、高橋用水上部遊歩道整備協会と連携し清掃活動を学校と地域で協力して行っている。4年生では、企業(アイシン株)と協働し、アイシン環境プログラムを出前授業で行っていただいたり、JAと連携し、地域の昔のくらしの学習、本校学区のシンボルだった菜の花畑・菜種の収穫体験を行ったりしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

学校ホームページで本校のESD教育の実践を国内外に発信するとともに、国内の研究会に参加し、教員の研修を深めたり、情報交換をしたりしている。また、平成25年度の本校の研究発表会「環境学習を基盤にしたESDの推進」以来、国内外のESD推進団体とメールでの情報交換をしている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

毎年、生活科・総合的な学習を軸にした教科横断的な指導計画（ESDカレンダー）を作成し、実践内容をポスターにして校内に公開しているため、児童・教員のESDに対する意識が高くなり、学校診断アンケートで「学校は、地域の人材を活かし効果を上げている」という質問に91.9%の保護者が「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」と回答した。生活科・総合的な学習の時間の内容が充実し、環境学習・地域学習が定着している。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

(1) 生物多様と共生に係わる学習

「ミツバチってすごい！～中部の虫や草花と共に暮らす～」

- ・ 3年、4年交流活動「ミツバチのひみつを探ろう」：ミツバチの生態や、中部学区の菜の花畑やイチゴ農家とミツバチの関わりについて学ぶ。
- ・ 4年「おいでよミツバチ」：菜種油絞り体験授業や油脂工場の見学、六ツ美中部碧の会と共に菜の花畑をつくる活動をする。
- ・ 5年「ミツバチを手本に暮らしを変える」：蜂の巣とネイチャーテクノロジーについて専門家から学ぶ。

(2) 地域の食糧生産と水環境に係わる学習

「中部のお米は日本一！～米作と水環境を考える～」

- ・ 2年、5年交流活動「お米を作ろう」：米作り体験をする。
- ・ 5年「田を潤す水はどこから」：学区内矢作川下流域とスーパー堤防、高橋用水の観察、川の上流観察と里山の浄化作用実験を通して、川の姿と治水、自然界の水の循環を学ぶ。

(3) 防災、減災に係わる学習

「守ろう大切な命、守ろう僕らの六ツ美中部～～」

- ・ 1年、6年、特別支援交流活動：地震や津波に備え、上学年が下学年を連れて避難訓練をする。
- ・ PTA親子防災体験：学校に宿泊して、親子で避難体験をする。
- ・ 6年専門家や地域講師から防災や減災について学び、中部学区のライフラインや備えについて、自分にできることを考える。

(4) 学びの発信

「中部の暮らしはすてきがいっぱい！～学びを伝え、分かち合う～」

- ・ 教科横断的に探究してきた地域環境学習について、1月「ちゅうぶだいすきデー」において発表する。